

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 132人 国語B 132人

② 算数A 132人 算数B 132人

5 留意事項

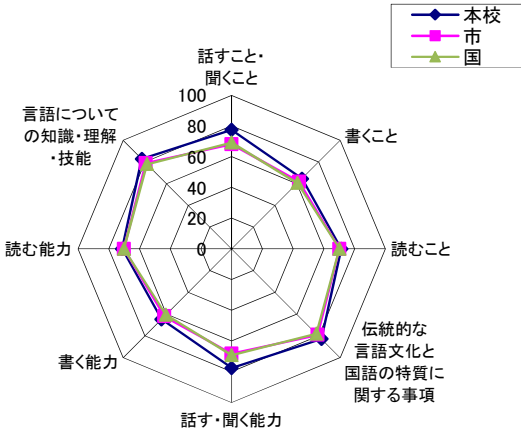
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

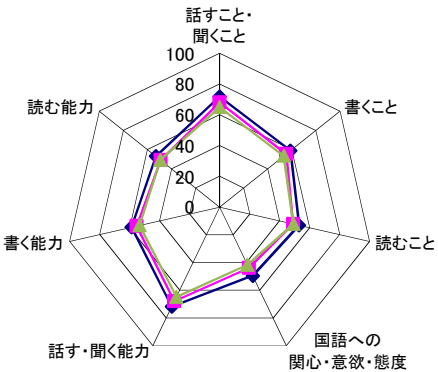
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.5	68.2	69.2
	書くこと	64.7	62.0	60.6
	読むこと	71.3	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.8	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.5	68.2	69.2
	書く能力	64.7	62.0	60.6
	読む能力	71.3	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	82.8	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.8	68.0	64.9
	書くこと	58.8	55.3	53.4
	読むこと	53.0	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	49.6	43.9	41.7
	話す・聞く能力	71.8	68.0	64.9
	書く能力	58.8	55.3	53.4
	読む能力	53.0	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

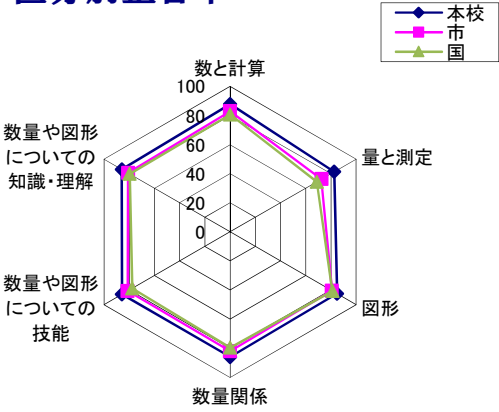
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aでは、市の平均正答率を9ポイント以上、上回る正答率で、国語Bでも市の平均正答率を上回っている。 ○互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う設問での正答率が高かった。	・今後、さらに力を付けるために、話合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話合いを進めていけるようにする。また他教科との関連を図り、児童の日常生活に生きて働くよう多くの話合いの場を設定していきたい。 ・スピーチの学習では、自分や友達の発表の様子を動画で撮影するなど観点に沿って振り返ることができるようにし、相手の反応を見ながら話すことができるようにしていく。
書くこと	○国語A、国語Bでも市の平均正答率を上回っている。 ○国語Bの目的や意図に応じて引用して書く設問においては、全国の平均正答率を上回っている。 ●国語Aの目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く設問において、全国の平均正答率を下回っている。	・目的や意図を明確にして、書く事柄を選び、書きたいことの中心が伝わるように詳しく書いたり、簡単に書いたりすることができるよう指導していく。また書いた手紙を互いに読み合い、伝えたいことが適切に相手に伝わるかどうかを考えさせるようにする。国語の学習以外でも、お礼のお手紙や案内状などを書く機会を活用して力を付けていきたい。
読むこと	○国語A、国語Bでも市の平均正答率を上回っている。 ○国語Bの登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える設問では、全国の平均正答率をわずかに上回る結果となっている。 ●国語Aの俳句の情景を捉える設問において全国の平均正答率を下回っている。	・言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを交流することで、自分が想像したことを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・文学的な文章では、心に残った叙述を取り上げ、その叙述をどのように解釈したのか、自分の考えを明らかにしながら話し合い、各自の読みを広げていくことができるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均正答率を上回っていて、どの設問においても全国の平均正答率を上回っている。 ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる設問が他の設問と比較すると低い。	・今回、漢字の読み書きはよくできていたが、この結果が継続できるよう復習を定期的に行っていきたい。また、国語の学習だけでなく、生活の中で文章を書くときには、既習した漢字を必ず使用するよう意識を高められるようにしていく。 ・ことわざや四字熟語等、復習する時間を設けて、普段の日記や朝の短作文で使えるよう指導していきたい。使用できた児童の作品を紹介することで、使い方を全体に広めていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

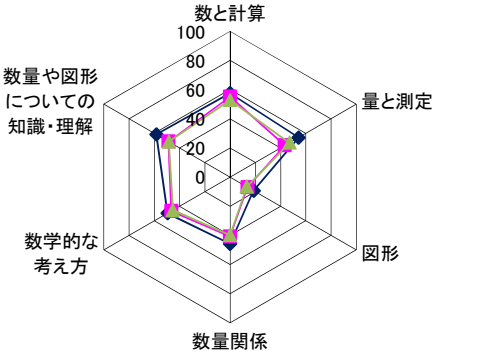
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	87.8	82.9	80.6
	量と測定	82.6	72.5	68.8
	図形	84.9	80.8	81.1
	数量関係	85.9	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	86.0	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.5	55.1	52.8
	量と測定	54.3	43.4	47.0
	図形	18.6	13.8	13.2
	数量関係	45.8	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	49.6	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	58.5	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数A・算数Bともに、市の平均正答率を上回っている。 ○算数Aでは、多くの設問で平均正答率が90%を超えており、基礎・基本的な計算力は十分身に付いていることがうかがえる。 ●算数Bでは、複数の数の関係を、提示された方法を適用して解答する設問に対する正答率が低い。	・今後も計算の手順の理解や単純な計算力を定着できるように反復練習し、さらに式の意味や計算の工夫などを理解し、能率的に解答できるように指導していく。 ・示された情報を基に説明する学習では、図や数直線等を用いて考えを表現する活動を意図的に行い、必要な条件を満たして説明する力を育てるようにする。
量と測定	○算数A・算数Bともに、市の平均正答率を大きく上回っている。 ○算数Aでは、底辺と高さの関係についての設問の平均正答率が82.9%と高い。 ●算数Bでは、示された平均値を基に見通しを立て、計算を工夫して解答する設問に対する正答率が低い。	・日常生活や他教科において平均を求める場面を設定し、その際に、平均を求める式の意味を場面や状況と関連付けて考察し、適切に平均を求めることができるようにしていく。
図形	○算数A・算数Bともに、市の平均正答率を上回っている。 ○算数Aでは、どの設問でも正答率が80%を超えており、合同や立体の面の位置など、基礎的な知識が定着していることがうかがえる。 ●算数Bでは、基準量や割合、比較量の関係を説明する設問に対する正答率が低い。	・今後も授業において具体物をたくさん用い、児童が平面・立体の図形の構成や性質を理解しやすくなるようにしていく。 ・自分が導いた答えを順序立てて論理的に説明することができるように、ノートにまとめたり、グループ学習で学び合ったりする機会を設ける。
数量関係	○算数A・算数Bともに、市の平均正答率を上回っている。 ○算数Aでは、資料にある数量を表に分類・整理する設問に対する正答率が高い。 ●算数Bでは、割合の意味を解釈して、正しいグラフや図を選ぶ設問に対する正答率が低い。	・公式を使ってただ答えを求めるといった学習だけでなく「どうしてその式で求めたのか」や「なぜその式で答えが出るのか」など、求め方を自分の言葉で確かめ、論理的に説明するような場面を多く設けるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○国語の勉強が好きかの肯定割合は約60%、算数の勉強が好きかの肯定割合は約70%であるが、将来役に立つと思うかについては、どちらも約95%となっている。国語・算数にやや苦手意識はあるものの、学習する必要性を感じている児童が多いと考えられる。

○学校の決まりを守っているかの肯定割合は約93%、いじめはどんな理由があってもいけないことであるの肯定割合は約98%であり、規範意識が身に付いていると考えられる。

○ものごとを最後までやり遂げた達成感を味わったことがある児童の割合が約97%、失敗を恐れないうで挑戦している児童の割合が約81%であり、何事にも意欲的に取り組む児童が多いといえる。

○毎日朝食を食べていると答えた児童の割合が約98%、毎日同じ時間に寝たり起きたりしていると答えた児童の割合が約86%であり、全体的に規則正しい生活をしていると考えられる。

●友達の前で自分の意見や考えなどを発表することは得意かの肯定割合は約60%とやや低い。人前での発表に苦手意識を持っている児童が多いということがいえる。学校のいろいろな場面で、これからは児童に発表の場を与えていくなど、継続的に指導していく必要がある。

●平日テレビゲームなどをどのくらいするかでは、1時間未満と答えた児童の割合が約57%であった。今後も保護者に協力してもらいながら、節度を持って行うよう指導していく必要がある。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えをもって話し合う	・自分の考えをもって、自信をもって話し合いに参加できるように、話し合う前に自分の考えを書いて整理する。	・国語の結果では「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う」設問の正答率が高かった。しかし、質問紙の「友達の前で自分の意見を発表することは得意か」の肯定割合はやや低く課題が残った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・目的や意図に応じて内容の中心を明確にして書く	・目的や意図を明確にし、条件に合わせて書く力を付ける。	・まず、書くことへの抵抗感を少なくするため、国語の授業はもちろん、各教科で自分の考えを書く活動を増やす。また、朝の学習等で「ミニ作文」の取り組みを継続し、目的に応じて書いたり、条件を付けて書いたりする活動を積み重ねる。友達と読み合い、相手に適切に伝わるかどうかを考えさせたい。